

BS Medical Express 48

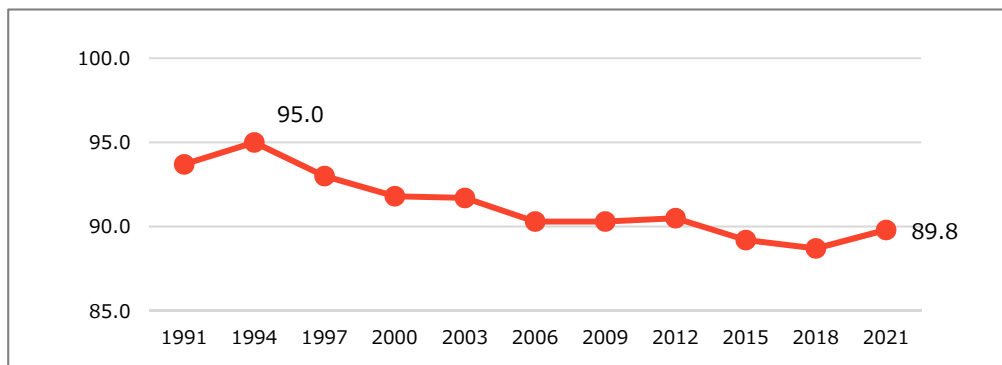
～ ベルシステム24が、お客様の課題解決のお役に立てるよう、医薬関連の最新情報をお届けする月刊誌です。～

生命保険会社、広がるヘルスケアスタートアップとの協業

Industry Trends

近年、IoTやビッグデータ、AIなどのデジタル技術を有するスタートアップと協業し、ヘルスケアサービスの開発に参入する生命保険会社が増加している。明治安田生命は、保険加入者向けに健康維持・改善に向けた取り組みを支援する「みんなの健活プロジェクト」を2019年から開始しているが、今年2月、Bodygram社が開発したAIを活用し身体サイズを推定する先進技術「Bodygram」のサービスを追加したと発表した。首回りや肩幅など全身12カ所のボディサイズだけでなく、体組成や姿勢分析など服を着たままで瞬時に計測、体型改善の要否に関する気づきや体型維持へのモチベーション維持を支援する。SOMPOひまわり生命は今年6月、アドバンスクリエイトとAVITAが共同開発したアバターを導入、契約者のアフターフォローやサービスの紹介、コールセンター部門で勤務するオペレーターによるライフプラン、デジタルネイティブ世代の社員への営業研修に活用することを発表した。アバターを表示することで顧客と社員のプライバシーの保護や、円滑なコミュニケーションの実現を図る。住友生命は今年7月、本社およびグループ会社約1万人を対象に、生成AIチャットシステムの社内運用を開始すると発表、また、顧客の健康および運動データと生成系AIシステムを組み合わせ「パーソナルアドバイス機能」を同社が提供する健康プログラム「Vitality」のアプリに実装することや、一人ひとりに最適なウェルビーイングサービスを提案する機能などを顧客向けアプリに実装することを目指す。国内における生命保険の需要は飽和しつつあり、世帯加入率がゆるやかに減少していく中で、既存サービス以外の加入者の健康情報や生活習慣などのリアルデータの収集・分析による新サービスの開発や、データ活用による新たな収益源の構築など、業態の枠にとらわれないビジネスの拡がり期待される。

図 生命保険の世帯加入率の推移



出典:公益財団法人 生命保険文化センター「2021(令和3)年度 生命保険に関する全国実態調査」
<https://www.jili.or.jp/files/research/zenkokujittai/pdf/r3/p003-043.pdf>

世界的に医薬品供給不足が深刻化

Global Eyes

日本では、医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に向けた議論が進められているが、欧米においても医薬品の供給不足が深刻化している。CDC(米疾病予防管理センター)が今年3月、インドの製薬企業が製造した人口涙液に緑膿菌が混入していたため、3名が死亡、8名が失明、4名が眼球を摘出した手術を受けたと発表している。また、全米で広く使用されている抗がん剤シスプラチンとカルボプラチンが、米FDA(米食品医薬品局)の指摘を受け、米国向けの後発品製造を停止したことで、両剤が供給不足に陥っている。背景に低利益製品の後発品をインドなどの海外に依存するサプライチェーンの脆弱性があり、政府はタスクフォースを結成し、調査を実施中である。欧州では特に抗生物質製剤の供給不足が深刻化している。エネルギーや原材料価格の高騰にもかかわらず価格が低く抑えられているため、多くの製薬企業は増産が難しい状況にある。このため欧州委員会は今年4月、欧州連合(EU)内の医薬品取り扱いに関する法律の改定案を公表した。改定案では、先発品の特許保護期間を10年から8年に短縮する、▽製薬企業に対し供給に関する問題があればEU当局に事前に報告することを義務付ける、▽必須医薬品の入手状況を監視するため、重要医薬品リストの作成を行うーといった内容となっているが、提案にはコストがかかり後発品市場の混乱を招くとの指摘があり、成立するかどうか見通せない状況である。

厚生労働省は7月4日、「2022(令和4)年国民生活基礎調査の概況」を公表した。調査は、保健、医療、福祉、年金、所得等国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働行政の企画及び立案に必要な基礎資料を得ることを目的とするもので、1986年から3年毎に大規模調査を実施している。

2022年の人口1,000人当たりの通院者は417.3人で、19年04.0人から13.3ポイント増加し、過去最高を記録した。59歳以下では19年と比較して全ての年齢階級で減少していたが、60~69歳、70~79歳の階級で増加したことが影響した。人口1,000人当たりの通院者は1995年283.3人から22年は1.5倍に増加、今後も高齢化に伴う増加が懸念される。

傷病別にみると、男女とも「高血圧症」での通院者率が最も高く、次いで男では「糖尿病」、「脂質異常症」、女では「脂質異常症」、「眼の病気」となっている。第1位の高血圧症をみると、男性は2001年64.9人から22年は146.7人と2.2倍、女性は78.2人から135.7人と1.7倍に増加しており、依然として罹患者が多い国民病であることがデータからもうかがい知れる。介護が必要となった原因疾患のトップは認知症、次いで脳血管疾患(脳卒中)であり、高血圧症や糖尿病など生活習慣病の治療はもちろん、予防に焦点を当てた施策が益々重要になると考えられる。

図 人口1,000人当たりの通院者数の推移

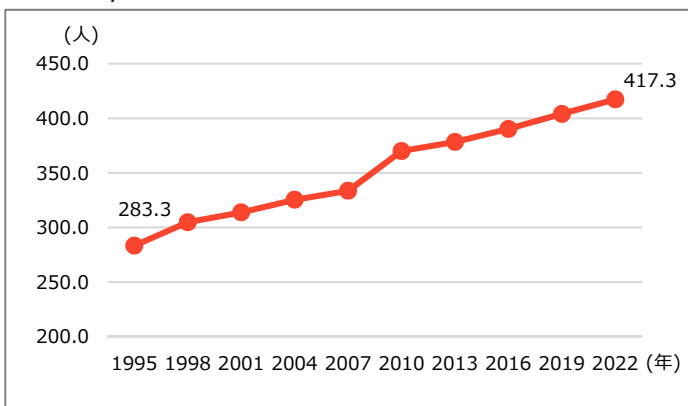
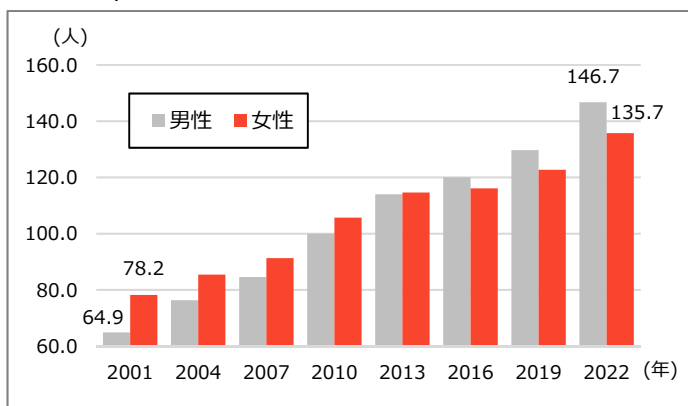


図 人口1,000人当たりの「高血圧症」による通院者数の推移



厚生労働省「国民生活基礎調査の概況」を元に作成 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21kekka.html>

外部セミナーで弊社社員が発表します

Message From Our Business

2023年10月18日(水)に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで開催される「ファーマIT & デジタルヘルスカンファレンス2023」にて、当社社員が登壇予定です。

■詳細は以下よりご確認ください

名称	ファーマIT & デジタルヘルス カンファレンス 2023
プログラム	カンファレンス、展示会
日程	2023年10月18日(水) [セミナー] 10:00~17:15 [展示会] 11:00~17:45
会場	御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター2F(東京都)
主催	インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社
後援	(公社)日本マーケティング協会、(一社)日本マーケティング・リサーチ協会、(一社)ヘルスケアイノベーション協会
参加	無料・事前登録制
演者	株式会社ベルシステム 2 4 第1事業本部営業企画部 マネージャー 塚前 昌利
演題	ベルシステム 2 4 が取り組むDXソリューションとは？
講演時間	14:15~14:45
URL	https://www.pharmait-expo.com/phrmait-webinars/

編集後記

9月18日の敬老の日にちなみ、総務省が公表した人口推計によると、総人口に占める高齢者の割合は29.1%で過去最高を更新しました。WHOは65歳以上を高齢者と定義しており、日本も65歳以上を高齢者と定義しています。また、WHOは高齢化率が21%以上の社会を超高齢社会と定義しており、日本は2007年に21%を超えていることから、「日本は超高齢社会を迎えている」というのが正しい表現になります。

BS Medical Express No.48

発行日：2023年9月28日
 企画編集：塚前 昌利
 (日本医業経営コンサルタント協会 認定登録 医業経営コンサルタント)
 発行部署：株式会社ベルシステム 2 4 第1事業本部 営業企画部
 お問い合わせ：iyaku_mkt@bell24.co.jp